

「安全・品質・環境」への絶え間ない取り組みが、 企業を着実に成長させていきます。

ヤスハラケミカルの各工場では、生産性向上を推進すると同時に、

「安全・品質・環境」の改善に取り組んでいます。

「安全・品質・環境」への取り組みは、

お客様に高品質な製品を安定的に提供するだけでなく、

従業員のスキル向上やワークライフバランスの実現を

推進することにもつながります。

ここでは2014年度における

「安全・品質・環境」への取り組みの一例をご紹介します。



① 「安全」への取り組み

「平成26年度広島県石油コンビナート等総合防災訓練」への参加

2014年10月29日、当社福山工場を会場として、「平成26年度広島県石油コンビナート等総合防災訓練」が実施されました。この防災訓練は、昭和44年から隔年で広島県内4箇所の石油コンビナート地区持ち回りで実施されているもので、今年で24回目となります。主催は広島県と福山市、参加機関は警察・海上保安庁・消防・NTT・中国電力など24機関、約330人参加という、防災関係機関と関係事業所が連携した大規模な訓練でした。

訓練の想定は、「長者ヶ原断層帯を震源とするM7.4の地震

が発生、福山地区沿岸部に最大震度6弱を観測」とし、陸上訓練と海上訓練が実施されました。

陸上訓練では、当社福山工場自衛消防隊も参加し、化学消防車による初動措置及び消火活動とともに、タンク火災を想定した冷却訓練及び延焼防止活動を行いました。

また海上訓練では、オイルフェンス展張訓練と流出油防除訓練に参加し、迅速で的確な動作を披露し、当社の防災活動のレベルの高さを社内外にアピールしました。



タンク火災とオイル漏れを想定した訓練の様子



福山工場自衛消防隊のメンバー

② 品質への取り組み

特殊原材料の貯蔵方式見直しによる品質向上

ヤスハラケミカルで扱う原料の中には、貯蔵時に温度が上昇すると重合反応が進み、危険な状態となる原料もあります。そのような原料に関しては、24時間低い温度を保つ温度調整システム付の貯蔵タンクに保管し、重合を抑制しています。従来の温度調整システムでは、高い貯蔵水準を維持する必要

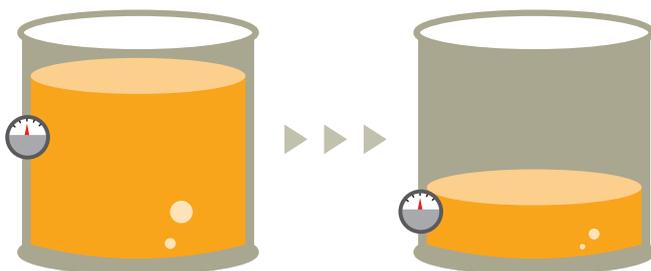
があり、消費サイクルが長くなることで品質劣化を招き、これを使用した製品の品質と収率に影響を及ぼしていました。そこで原料の温度調整システムを見直し、低い貯蔵水準でも一定の低い温度で貯蔵できるよう変更しました。これにより原料貯蔵期間中の品質劣化を防止することができました。

改善前

長期に低温貯蔵するには最低15トンの貯蔵量が必要

改善後

少ない貯蔵量でも一定の温度調整を可能にした



担当者 福山工場 製造課 田邊 豊彰



技術一部技術一課 尾浪 淳史

③ 環境への取り組み

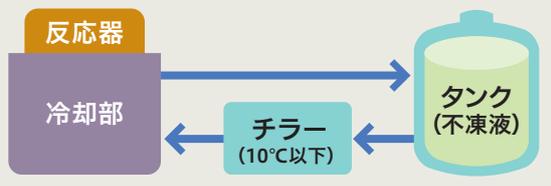
樹脂反応器の冷却方法見直しによる省エネ

製造工程の樹脂反応器では、反応熱が発生します。この熱を冷却するため、従来はチラー（冷凍機）で不凍液を10℃以下に冷却したものを利用していました。この冷却方式の見直しを行い、夏期は、冷却水を不凍液から伝熱効率のよい水に切り替えることで、チラーの設定温度を

高く設定することができ、省エネを達成しました。また冬期はチラーそのものを停止することを可能としました。チラー停止やチラーの使用電力削減などの改善効果により、年間を通して大きな環境負荷低減効果が得られるようになりました。

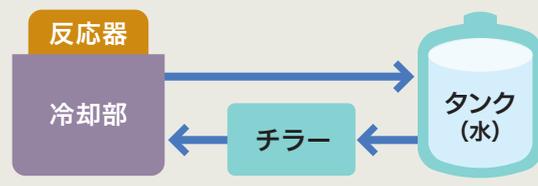
改善前

チラーで不凍液を10℃以下に冷却したものを使用していた



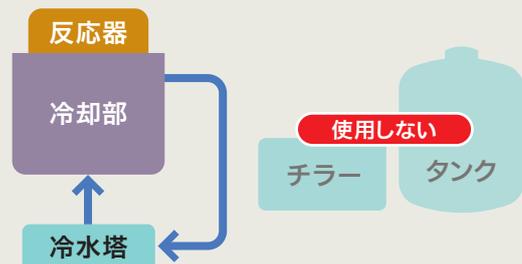
改善後
夏

不凍液の使用をやめ、チラーの設定温度を上げて使用電力を20%削減した



改善後
冬

チラーの使用をやめ、使用電力をさらに削減した



担当者 技術一部技術二課 青木 真也